

寺報 佛心

第54号

ご案内 春季大法要

三月二十三日(土曜日)

午後二時から

各家先祖塔婆供養

説教

巡教教師 佐賀県佐賀市

正法寺(東福寺派)

住職 矢岡究道師

春彼岸。ご先祖のご供養と

ともにお互い仏道精進の機会と心得ましょう。お子さんお孫さんをつれてお参り下さい。

塔婆供養の申込について

塔婆供養の申し込みは三月二十三日の当日までに、各班の役員世話人さんまたは長久寺までお申し出ください。



お彼岸のお勤めについて

左記の日程で檀徒各家にお彼岸の供養にお参りします。戸が開けばお留守でもお勤めをさせて頂きます。ご都合の悪い方はご連絡ください。

九日 地区外

十日 地区外

十五日午前 友重・平原

十六日午前 野登路一班

十七日午前 野登路二班

十八日午後 市原一班

十九日午前 市原二班

二十日午前 国木原一班

二十一日午前 国木原二班

日輪山 長久寺

【発行所】

岩国市美和町生見八一七
電話 〇八二七(九六) 〇九八二
FAX 〇八二七(九六) 〇九八二
発行人 三上宗順

幸せになる方法 その8

どう考えてみても何もせずただ待っているだけでは幸せは来そうにない。ではどうするか。特別な行動を起こさなくても、かんたんなルールを守っているだけで幸せになれる方法があります。

私たちは日常、ルールの中で暮らしています。外に出れば、交通ルールがあります。人も大きい車も小さい車もスムーズに行き来できる大事なルールです。まずこれを守ることが事故に合わない最低条件ですね。

ところでお釈迦様は集団生活する上でのルールつまり「戒」をつくられました。仏弟子として生きるために授ける「十重禁戒」

もその一つです。

「生き物の命を大切にしない」「人の物は盗ってはいけない」「慈悲のない性的な快楽はしてはいけない」「ことさらに相手をだましてはいけない」「酒は酩酊するほど飲んではいけない」「他人の過失をことさらに責めてはいけない」「自分をほめ他人をけなしてはいけない」「怒りは度を越してはいけない」「仏様・仏様の教え・それを学ぶ仲間をけなしてはいけない」の十戒です。

「戒」と言っても無理難題の押付けではないことがお分かりでしょう。しかしやさしいようで難しい。ただこれを守っていれば、ご自分がそして周りの人達が心安らかに日々を送れるはず。それだけで十分幸せだと思えますがいかがでしょう。幸せになるにもルールがあるようです。この度長久寺のホームページを改装しました。ご覧いただければ幸いです。

私の中に「佛心」はある？

1月の中旬にちょっと大きな行事を終えて少々脱力感に襲われているところですが、これも70超えの体力のなさなのでしょうね。

「一に掃除二に掃除、三四が無くて五に看経」とか「お寺のご馳走は掃除」などと言いますから、この度も12月から手箒を振りながら木枯らしで飛んでくるスギやヒノキの葉を履き、冬でものぞく小草を取り、何度か地ベタをはいまわりました。

もちろん掃除はお寺の日課でもあるのですが、日頃はプロワで吹き飛ばして、ハイ終了。パッと見にはそれでいいかもしませんが、苔の上の落葉はなかなか飛びませんし、ツツジなどの根元には落葉が引っかけ、虫の巣や木に苔の生える原因になったりします。

苔の上や植木の根元まで

ちんと掃除をすると庭に清涼感が出ます。漂う空気が違うのです。私自身もさっぱりとした気分になれるのです。

しかしそうと分っているのですが、なかなか徹底できない。

掃除はきりがなく、終わりがたない。納得するのが難しい。「完ぺきだー」と振り向いて落ち葉や草の取り残しを見つけると落胆する。またうろうろして他にもないか探す。この時、一からやり直すか「まっぴいかな」と早々に切り上げるかなんです。再度手箒を振って「今度こそ完璧！」と腰を降ろすと、そこへ一陣の風。元の木阿弥。イライラがつのる。では「一に掃除だ」などというのはどういう心持なのか。長久寺の山門をくぐると「佛心」と刻まれた立石があります。

これは平成二十四年六月二

七日に大本山天龍寺派佐々木容道管長猊下の御親化が有り、その御来山記念として据えたものです。

「佛心」は、管長猊下の揮毫によるもので、この寺報の名にも使わせて頂いております私の宝物なのです。

長久寺は禅寺を標榜しているわけですが、72年も仏飯を食みながらお釈迦様の教えに背いてばかりでついにロートル住職になり果てて、お悟りとは程遠い「しもうた、あんときああしちよきや」の後悔ばかり。この身今生に向かつて度せずんばーなのです。

禅とは心の事。その心は目と耳と口と鼻と身とに直結しているから、それぞれに反応して欲を出す。欲しい惜しい憎い可愛い欲です。欲は楽しみや喜びになり、トラブル・苦に

もなる。何かあると人の所為

にし、機嫌を悪くし当たり散らす。仕舞には心が病んでしまふ。みんな自分の心から出て、自分の心に跳ね返ってくる。

ところでその欲を起すその心は「仏心」という心でもあるとお釈迦様は言われるのです。その心を仏心だと信じなさいと円覚寺元管長朝比奈宗源老大師は言われるのです。仏心とはお悟りのこと。

石に刻んで頂いたものの心に刻み込めない、信じ切れない。本来の鈍根です。ですから掃除の合間に自分の中にもあるという石に刻まれた「佛心」を、眺めたり、手を合わせたり、深い刻みに手を這わせてみます。ただまあそれだけのこと。「仏心」があるらしいぐらいでは、イライラがわいてきても無理はない。でもあると知れただけでも仏教は有難い。